

難病の子ども達のためのキャンプ場建設にご協力を!

みんなのふるさと 夢プロジェクト

認定 NPO 法人「難病のこども支援全国ネットワーク」では様々な取り組みを行っています。

全国で20万人以上の子ども達が難病あるいは重篤な病気と闘っています。認定NPO法人「難病のこども支援全国ネットワーク」(以下難病ネット)では、そうした子ども達と家族、それを支える小児科医など様々な立場の人々が共にネットワークづくりを目指しています。20年以上にわたって難病ネットは様々な分野で子ども達と家族のQOLを高める活動に取り組んでいます。難病ネットの活動の柱の一つに、毎年全国各地で開催しているサマーキャンプ「がんばれ共和国」があります。このサマーキャンプは全国7カ所(北海道から沖縄)で開かれ、数百人の子ども達(車いすの子、寝たきりの子、さらには重症児で呼吸器が必要な子まで重症度は様々です)が家族とともに各地の保養施設に集います。普段家に籠りがちな子ども達はわずか数日のキャンプ生活で子ども達は見違える程元気になり、豊かな感性が育まれます。そして親達は悩みを話し合っって絆を深めます。次第に難病ネットにとって、常設キャンプ場を造る事が悲願となりました。このような経緯の中、ある篤志家が偶然にも私達の故郷山梨の白州町にある広大な3000坪の山林を難病ネットに寄付してくれたのです。



私達は夢の実現を目指して、2011年7月に「みんなのふるさと夢プロジェクト」実行委員会(委員長:仁志田博司東京女子医大名誉教授)を結成しました。何時でも好きな時に、医療班に見守られて、白州キャンプ場で家族と一緒にゆったりと過ごし、遊ぶ事は難病の子ども達にとって素晴らしい思い出となる事でしょう。すでに大規模開発申請は受理され、今冬から森林の伐採を始め、2013年夏から第一棟目の山小屋建設を始めます。プロジェクトの全てが完成するまでに5年から10年かかるかも知れません。実行委員会では様々な募金活動を繰り広げており、多くの人々の賛同が得られ、全国から寄付金が寄せられています。プロジェクトの完成までには多額の資金が必要になる事をご理解いただき、資金面のご協力をお願い致します。キャンプ場のイラスト(福井修己画)のように、子ども達は木立に囲まれた山小屋に寝泊まりし、小鳥のさえずりを聞き、動物と遊び、風のそよぎを感じて、夜は星の瞬きに見入る事でしょう。